

平成29年度
地方創生関連事業
評価検証資料

駒ヶ根市

1. 中央アルプスを活かした観光地再生プロジェクト

【商工振興課・観光推進課】

事業費 : 34,292千円

うち交付金 : 17,146千円

事業の目的

通過型から滞在型の観光地へ移行し、経済が活性化した地域を創るため、ジオパーク化・国定公園化推進事業を中心に、インバウンド事業推進や山岳地域と街なかを繋ぐ取組み等を進める。

【地域再生計画名：中央アルプスを活かした観光地再生プロジェクト（H28～H32）】

事業の概要及び実施内容（成果） ①

【ジオパーク化推進事業】

近年の日本ジオパーク認定・国定公園化を目指した取組みを行った。

（1）ジオパーク化推進事業

準会員登録、情報収集、ジオストーリー・サイトカルテ等の検討、地域一体感醸成のための啓発・情報発信関連事業、新たな観光資源を発掘し今後の事業推進につなげるための調査・研究（モニターツアー3回、講演会1回）

また、国定公園化については、県が中心となり協議会の設置、調査、国への申請準備を行った。ジオパーク化推進とともに気運醸成を図った。

（2）千畳敷カールの保全管理・活用事業

長野県天然記念物「中央アルプス駒ヶ岳（千畳敷カール）」保全管理委員会による調査・検討（委員会2回、現地視察1回）

【観光推進課】

・現地におけるジオツアーの開催、ジオサイト調査、ジオストーリー案の作成など、新たな観光資源の発掘も含めた取組みを行った。

・保存管理委員会においては、千畳敷カールにてカメラモニタリング調査を行い、観光客と登山客の動向や、登山装備の有無などの分析を行った。



不動滝ツアー



ジオ講演会



ジオツアー（昆虫食）

今後の方向性

事業見直しにより継続

引き続き国定公園化に向けた取組みを推進するとともに、伊南DMOにおける観光資源としてジオパーク認定に向けて進めてきた事業内容の活用の検討を進める。

事業の概要及び実施内容（成果） ②

【インバウンドプロモーション事業】

平成28年度に策定したインバウンドプロモーション計画に基づき、台湾を主なターゲットとして、中ア山麓のプロモーション活動を開始した。

（１）PR動画作製（英語、繁体字、タイ語）

外国人目線を取り入れるため、事前に信州大学留学生を招聘しフィールドワークを実施。意見を踏まえた中で、四季・観光スポット、祭りなどを中心とした動画を一年かけて撮影した。

（２）ファムトリップの実施

6月開催の中央アルプスヒルクライムに併せて、台湾エージェント13名招聘し、ヒルクライムをはじめ市内観光スポットを巡るツアーを実施した。ツアー化の動きあり。

（※ファムトリップ：現地の旅行業者を招聘し、観光スポットを体験してもらうツアー）

（３）台中市旅行博出展（10/13～16）

4日間で約820名の立ち寄りがあり、約3000部のパンフレットを配布した。日本国内同様に中高年の方が興味を持っている状況であった。駒ヶ根市へのインターンシップを経験した台湾の学生も参加した。

（※インターンシップ事業：台中市との交流事業で6名の大学生を受け入れ）

（４）台湾メディアを活用したPR

台湾非凡チャンネルにて当市紹介番組を制作放映した。この取り組みをきっかけにツアーの企画も実現している。



台湾旅行博



インターンシップの学生と



ファムトリップ

※ファムトリップ：現地の旅行業者を招聘し、観光スポットを体験してもらうツアー



台湾メディア招聘

今後の方向性

拡充

プロモーションを通じて徐々にではあるがツアーも企画されるなど誘客効果が出ている。

平成30年度は、台中花博を通じてのPRが主となるが、交流にとどまることのないよう、積極的にまたより効果的なPR方法を検討するとともに、台湾以外からの誘客施策も考えていく必要がある。

事業の概要及び実施内容（成果） ③

【アルプスの麓のまちづくり ブランディングの推進】

（１）官民協働による山岳観光都市に相応しい街並みづくり計画の実現に向けた意見調整などのコーディネート、ブランディングを行った。

- 山岳観光都市街並み計画調整コーディネート委託
- ・ H29.7.1「こまがねテラス」として第１弾15店舗の取り組みがスタート
- ・ 取り組みの方針を検討する「まちなかWS」を６回開催

（２）山とまちをつなぐ、まちなかの商店や市民の自立した実践活動をサポートし、官民の一体的な取り組みとして始動させた。

- 山とまちをつなぐ民間主導事業実践者支援
- ・ 広小路商店街バナーフラッグ制作 ほか５件

（３）まちなかの山岳観光客へのおもてなし、山麓の施設に宿泊される観光客をまちへ誘導する仕組みの構築を行った。

- 実践者スキルアップ講座
- ・ インスタグラム技術講習会及び中心市街地の魅力発信
- ・ ブランディングマネジメント講習会及びおもてなしWSの開催

【情報媒体への掲載】
ラジオ、テレビ、広報誌、新聞

【新規店舗の開業】
空き店舗の解消など中心市街地の賑わい創出へ
【商工振興課】

重要業績評価指標（KPI）

	KPI		当初	H28末	H29末
①	１人当たり観光消費額（円）	目標値	4,016	4,020	4,100
		実績		3,722	3,947
②	年間観光客数（人）	目標値	1,263,400	1,278,600	1,288,900
		実績		1,333,600	1,216,000

H29.7.1「こまがねテラス」として
第１弾15店舗の取り組みがスタート！

第１弾店舗の取り組み→まちなかの「動いている感」



商品開発→「こまがねテラスらしさ」



カフェ等の開業 →まちなか活性化



今後の方向性

拡充

- ・ おもてなし参加店舗の拡大（目標30店以上）
- ・ おもてなしWSを発展させて周遊部会の設立
- ・ 広報・PR部会を設置し、HPやチラシの作成及び広報戦略の展開

プロジェクトの今後の展開

本プロジェクトは３年計画の事業となっており、H30は最終年度としてさらに国定公園化の推進やインバウンドプロモーション、まちなかのブランディング事業を進め、観光地としての再生を目指す。

2. 駒ヶ根シルクミュージアムブランディング推進事業 (H28→H29繰越)【農林課】

事業費 : 36,617千円
うち交付金 : 18,308千円

事業の目的

養蚕業の歴史や文化を継承・発信する本施設について、交流人口のさらなる拡大と雇用創出を目的として、施設利用者数や各店舗の売り上げ増加につなげるため、展示空間の全面模様替えによる展示内容の魅力向上と、利用者の環境改善と施設改修による持続可能な施設運営を目指す。

【地域再生計画名：地域資源ブランディング推進プロジェクト（H28～H32）】

事業の概要及び実施内容（成果）①

【施設整備】

(1) 体験工房の誘客力を高めるため、体験棟をより開放的かつ一体感のある空間に改修した。加えて、着付け部屋を設置することで体験メニューの受入能力を強化した。



体験工房（室内）改修前



体験工房（室内）改修後



体験工房（入口）改修前



体験工房（入口）改修後



着付け部屋（改修前）



着付け部屋（改修後）

- (2) 展示内容の充実を図るため、収集資料を適切に保管するための資料室を設けた。
- (3) 直売所の利用者がより快適に買い物できるよう、床下を改修した。
- (4) 省エネ対策を進めて持続的な施設運営を目指し、空調設備及びLED化改修工事を行った。

事業の概要及び実施内容（成果）②

【効果促進事業】機能強化事業

- （１）体験事業に係る繭クラフトの材料として、年間を通して蚕を飼育するための飼料を適切に保管できる低温貯蔵庫を設置した。
- （２）体験工房室をより魅力ある空間とするため、繭クラフト作品等の陳列テーブルを設置した。
- （３）収集した資料を適切かつ効率的に保管するため、ラックを設置した。
- （４）直売所の商品ラインナップを増やして誘客力を高めるため、冷凍ショーケースを設置した。
- （５）施設利用者の滞留時間を延ばし、かつ快適に過ごしてもらうため、ロビーチェアを設置した。



桑保管用低温貯蔵庫



資料保管用ラック



ホールロビーチェア

重要業績評価指標（KPI）

	KPI		事業開始前	H29年度
①	年間観光客数（人） （高原エリア及びシルク）	目標値	630,100	630,200
		実績		634,300
②	1人当たり観光消費額（円） （高原エリア及びシルク）	目標値	4,004	4,010
		実績		5,250
③	駒ヶ根シルクミュージアム 施設利用収入（千円）	目標値	70,965	72,000
		実績		63,776

今後の事業展開

関東経済産業局が進める絹のみち広域連携プロジェクト及び信州シルクロード連携協議会と連携しながら、リニューアルした当施設の魅力を県内外に発信し誘客増加を図る。

また、四季折々の当施設の魅力を高めるため、地域住民と協力し、彼岸花の植付けなど周辺環境整備を行い誘客につなげる。

3. 駒ヶ根市交流促進センター（こまくさの湯） ブランディング推進事業 (H28→H29繰越) 【観光推進課】

事業費 : 57,500千円
うち交付金 : 28,692千円

事業の目的

早太郎温泉郷の中核的な日帰り温泉施設として、新たな利用者ニーズに対応することを目的として、提供可能なサービスの拡大や来館者の利用環境改善、維持管理費の削減を図るなど、国内外の観光客に対して魅力あるサービスを提供するために全面的な施設の模様替えを行う。

【地域再生計画名：地域資源ブランディング推進プロジェクト（H28～H32）】

事業の概要及び実施内容（成果）

- (1) 本館食堂機能を強化し、利用者の満足度向上を図るため、厨房増築、食堂空調設備新設、食堂内装模様替えなどを行った。
- (2) 外国人旅行者を含む利用者の環境改善を図るため、トイレを洋式化した。
- (3) 魅力ある入浴を提供するため露天風呂の堀をリニューアルした。
- (4) 別館ゆうらく館でも食事提供できるよう、ゆうらく館の厨房改修を行った。
- (5) 山岳高原に相応しい施設環境を整えるとともに、利用者の利便性向上や防犯対策の強化を図るため、玄関ロビーの模様替え、下足室の改修を行った。
- (6) 施設イメージの向上による誘客促進と省エネ効果による持続的な施設運営を図るため、館内照明をLED化した。



露天風呂



玄関ロビー



下駄箱改修



厨房改修

重要業績評価指標（KPI）

	KPI		事業開始前	H29年度
①	年間観光客数（人） （高原エリア及びシルク）	目標値	630,100	630,200
		実績		634,300
②	1人当たり観光消費額（円） （高原エリア及びシルク）	目標値	4,004	4,010
		実績		5,250
③	こまくさの湯利用料収入（千円）	目標値	119,298	120,000
		実績		124,911

今後の事業展開

今回の改修を期に、各種メニューや誘客イベントの開催、ゆうらく館の有効活用を行い、利用者の増加を図る。

4. JOCA移転に伴う市街地活性化のための 多世代・多文化交流拠点整備事業

【企画振興課】

事業費 : 40,003千円
うち交付金 : 20,000千円

事業の目的

駒ヶ根市に本部移転する公益社団法人青年海外協力協会（JOCA）と連携し、駒ヶ根市への新たな人の流れを作り出し、交流拠点を核に住民が活発に関わり合い、経済的にも活性化が図られる地域づくりに取り組む。

【地域再生計画名：青年海外協力協会本部事務所移転による市街地活性化（H29～H33）】

事業の概要及び実施内容（成果）

青年海外協力協会（JOCA）本務事務所の移転に合わせ、「市民活動支援センター」建物に、オフィス機能やカフェ機能等を追加し、多世代・多文化交流の拠点施設として活用できるよう改修した。

【工事概要】

改修工事は、市工事（解体・建築等）とJOCA工事（設備・内装等）にわけて実施した。

【市工事】

- ・ 工 期 平成30年1月16日～平成30年3月31日
- ・ 事業費 40,003,200円
- ・ 内 容 建築工事（外壁、建具、解体 など）
電気設備（幹線、誘導灯、自火報 など）
機械設備（給排水、換気、一部空調 など）

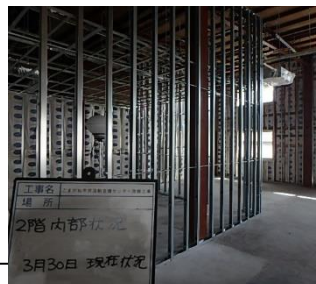


重要業績評価指標（KPI）

	KPI		事業開始前	H29年度
①	こまがね市民活動支援センター 利用者・来場者数（人）	目標値	9,270	9,270
		実績		11,623
②	市内年間商品販売額（億円）	目標値	594	597
		実績		数値未算出
③	空店舗を活用した出店者数（件）	目標値	5	7
		実績		9

今後の事業展開

- ・ 市民活動支援センター利用者増加に向けた取組。
- ・ JOCAとの連携を軸に、こまがねテラスプロジェクト、国際交流事業など市街地での事業を展開する。



5. 中央アルプスを活かすための山岳施設・登山道整備事業

【観光推進課】

事業費 : 10,209千円
うち寄附金 : 10,100千円

事業の目的

木曽駒ヶ岳と空木岳の間の縦走路のほぼ中間点にある無人避難小屋を、有人避難小屋に整備することで、登山者の利便性・安全性の確保及び環境保全を図るとともに、小屋周辺にテント場を新設し宿泊エリアを確保する。

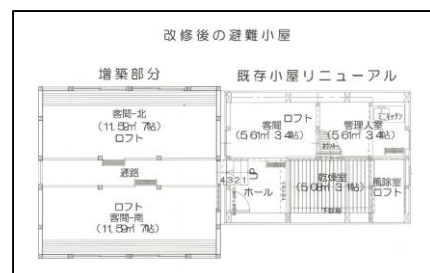
さらに、登山道整備もきめ細かく進めることで、幅広い年齢層の登山者やリピーターの増加につなげ、中央アルプスの魅力を体験してもらえるよう受け入れ態勢を整える。

【地域再生計画名：中央アルプスを活かすための山岳施設・登山道整備事業（H28～H31）】

事業の概要及び実施内容（成果）①

（1）中央アルプス檜尾岳避難小屋有人化のための整備及びテント場の新設事業

- ・ 檜尾避難小屋改修設計委託
基本設計及び実施設計を行った。



（2）中央アルプス一帯の登山道等整備事業

- ・ 登山道維持整備委託（空木岳、檜尾岳ほか）
- ・ 登山道整備工事（中央アルプス縦走路）
- ・ 池山小屋改修工事
- ・ 登山道駐車場トイレ改修工事

整備前



整備後



丸太梯子設置



丸太土留設置

事業の概要及び実施内容（成果）②

整備前



整備後



剪 定

剪 定

丸太階段・丸太土留設置

丸太階段・丸太土留設置

重要業績評価指標（KPI）

	KPI		申請時 H28.3	初年度 H29.3
①	檜尾小屋宿泊所者（人）	目標値	0	0
		実績		0
②	登山道を利用する 中央アルプス登山者数（人）	目標値	62,000	63,000
		実績		50,515

今後の方向性

継続

- ・ 檜尾岳避難小屋の有人化の推進及びテント場の新設を実施する。
- ・ 中央アルプスの魅力と安全性をさらに高めるため、登山道整備を引き続き実施する。